

日本学校教育相談学会

THE JAPANESE ASSOCIATION OF SCHOOL COUNSELING AND GUIDANCE

栃木支部会報 2005.09.26

NO.3

- 平成17年度日本学校教育相談学会栃木支部総会
- 記念講演 演題 「教育相談のこころ」 甲斐 志郎先生
- 日本学校教育相談学会栃木支部副理事長インタビュー記事 金子 賢先生
- 島根大会レポート
「第17回総会・研究大会(島根大会)に参加して」 小川 正人先生 (馬頭町立馬頭小学校)
- 栃木支部よりのお知らせ
- 栃木支部事業計画

○ 平成17年度日本学校教育相談学会栃木支部総会

平成17年度

日本学校教育相談学会栃木支部総会と記念講演

記 念 講 演

演 題

「教育相談のこころ」

講 師

甲斐教育・心理研究所所長

甲斐 志郎先生

栃木支部役員

(1) 現役員

支 部 理 事 長 丸山 隆

理 事 日野 宜千、川俣 幸雄、
毎澤 典子、伊澤 裕、
金子 賢、池田 清恵、
柴 一弥、小川 正人、
藤浪 直紀

会 計 監 査 長橋 恵美子、笠原 光雄

(2) 新役員

新 理 事 原田 浩司
(平成17年度栃木支部総会にて選出)

議 事

- (1) 平成16年度事業報告
- (2) 平成16年度決算報告
- (3) 「会計監査」報告
- (4) 平成17年度事業計画案審議
- (5) 平成17年度予算案審議
- (6) 役員選出
- (7) その他



○ 記念講演

演題 「教育相談のこころ」

講師 甲斐 志郎先生

平成17年6月18日（土）に日本学校教育相談学会栃木支部の総会と共に行われた甲斐先生の記念講演では教育会館5階小ホールが満員になる盛況振りでした。先生の講演は終始、『〇〇〇なんですよー』という甲斐先生の独特の口調で会場は時には笑いが起こり、時には先生が壇上から降りて受講者にマイクを向けるなど活き活きした講演でした。私も日野先生や丸山先生が言われる“甲斐節”に引き込まれていた受講者の一人でした。



先生のお話は、戦時中に小さな子供を抱き上げようとして、その子の頭に沢山のシラミがいるのを見て身を引いてしまった。その時「人を愛する事は難しい」と思ったと言う体験談から始まり、戦争を経て「自分は強くなった」、「いたずらする子供に直接関わっていきたい」と教育相談の道を歩み始めた動機を語られました。

先生は『教育相談は楽しい、それは教育相談の「教育」は「価値を教える事」であり、これは『父親の愛（厳しさ）』である。また、「相談」は「価値観を出さない事」であり、これは『母親の愛（優しさ）』である。つまり教育相談は『親の優しさと厳しさ』を持っているからです』と言われ、不登校の子供達との関わりから先生ご自身が学んだ事を事例と共に話されました。「～それでも母親が、てめえなんか死んでしまえ！～」という事例では、“大丈夫です”等は相談者の支えにならず、悩んでいる事を理解する事から始まり、『親に寄り添う』大切さを。「～山頂にたどり着いた時、私と夏子は、抱き合っただけ泣いてしまった。その時、差し出さ

れた冷たい水～」では、『共感の世界』はお互いが違う事を知る大切さを。「～二人の不登校生徒～」の関わりからは、『子供と時には対決する』必要性を話され、教育相談は受容や共感（優しい愛）だけではなく、時には子供と真剣に対決する（厳しい愛）事が必要で子供と対決するには『ここだと思ふ時』に相手が納得する様に対決する事が大切であり“理屈”や“大丈夫と伝える事”は「傍観者」の立場で「共感」の立場ではない。「人間の心は目では見えない耳で見る」「話を聴いてもらう気持ちのよさ」「感情が決い時は、意欲が高まり、行動が積極的なる」等を知ってもらいたいと話されました。

今回の講演で“甲斐節”を聞いているうちに『理論やテクニックだけではなく、時には自ら体当たりをしていく“覚悟や信念”を持つこと。人を愛する事は難しいけれど“素晴らしい”ことなんですよー』と甲斐先生が受講者全員のこころに「教育相談のこころ」を語りかけていたように感じた受講生は多かったのではないのでしょうか。

「不登校児童・生徒への援助仮説」

- ①心理解放期
- ②ラポール形成期
- ③耐性養成期
- ④自主性養成期
- ⑤安定期
- ⑥再登校

「カウンセリング過程での親の変容」

- ①混乱期
- ②他罰期
- ③自罰期
- ④探索期
- ⑤離脱期
- ⑥洞察期

（ 藤浪直紀 記 ）

○ 日本学校教育相談学会栃木支部副理事長

金子賢先生インタビュー記事

金子賢先生の紹介

- 昭和 33 年 国学院大学文学部を卒業
高校教諭（国語）としてスタートされました。
- 昭和 45 年 千葉大学の坂本昇一教授のもとへ内地留学され、
東京教育大学の事例研究会に出席し、
千葉ロールプレーイング研究会に入会
- 昭和 51 年 教育研究所の主任相談員を兼務
栃木県ロールプレーイング研究会を設立
- 昭和 62 年 県立宇都宮女子高校教諭に赴任、相談部副部長を兼務

【資格】

- 臨床心理士 ○ 家族心理士 ○ グループサイコセラピスト（スーパーバイザー）
- 認定カウンセラー ○ 学校カウンセラー など

現在は臨床心理士として真岡女子高校をはじめとしてスクールカウンセラーとして御活躍されております。また、自宅では『教育カウンセリング研究所』も開設されています。

1992 年に出版された『教師のためのロールプレーイング入門』は、皆様の中にもお読みになった方も多いと思います。

○先生の今のお仕事を聞かせて下さい。

今は県からの任命で宇高と拓陽のスクールカウンセラーを月に 2 回のペースで行っています。スクールカウンセラーの仕事は栃農を振り出しに真岡女子高、那須清峰、芳賀高、日光高、鹿沼商工、鹿沼東、清陵高、益子高、栃商、そして今年は宇高、拓陽の 2 校です。（他に忘れていた学校があったらゴメンナサイ・・・）平成 8 年に臨床心理士になってから 12 校のスクールカウンセラーを歴任しています。

臨床心理士になる前は、教育研究所の主任相談員や栃木県ロールプレーイング研究会や県の研修会などいろいろな体験を経て現在に至っています。

○金子先生と言えば「ロールプレーイング」と「集団に対するアプローチ」で有名なので、是非ともお話を聞かせて下さい。

ロールプレーイングから集団に対するアプローチを行うようになっていったんだけど、元々は坂本昇一先生のもと（内地留学）で集団を中心に勉強してきたんです。集団について勉強しているうちにロールプレーイングが、その中に入ってきただけで感じかなあ。そのうちに日本心理劇学会ができてね。そこにロールプレーイングを取り入れていった関係もあって常任理事もやっています。

私の集団に対するアプローチはグループダイナミクスから入っていったので集団療法学会のように治療的なものとは少し系統が違っているかも知れないですね。集団に対するアプローチは治療的なものと集団そのものを見ていくものがあるが、いずれも「集団と個」という事が問題になります。コルシニやヤーロムの集団のとらえ方（今ここでのことを大切するというとらえ方）では集団の効果というのが十数項目はありますが、私は「集団の中で希望を持ちメンバーともに学んでいくという形が、いずれ集団から離れた時でも希望を持ち自立できるように変わること」が集団に求められる最終的な効果であり、「集団の中でお互いに・・・」というのが大切だと考えています。だから集団を取り仕切ること（気持ちの良いものなんですけど・・・）でナルシスティックになってはいけないと思います。ですから構成的グループ・エンカウンターはロールプレーイングで言えばウォーミングアップだと考えています。ロジャーズの非構成的なグループ・エンカウンターは集団として個々が生きる姿であり、構成的グループ・エンカウンターの構成されたものとは違ってくると思います。また、家族療法もいろいろな新しい流派（コラボレーション・アプローチ、ナラティブセラピー、システムの流れに手を加えていくようなもの）が出てきて個人療法の部分をも含めて統合されていくと思っていますね。

私は実存的なカウンセリングを実践していた坂本昇一先生について学び、ロールプレイングを使うようになって集団に対するアプローチへ発展して、そして家族療法へという流れになるかなあ。これからは集団のつながりの中で「生きていくのか生かされていくのか」が問われる時代になっていくのかをロールプレイングで検証していくことが楽しみなんですよね。だから県の研修（初級・中級）にロールプレイングの講座がなくなったのは、ちょっと面白くないなあ。ロールプレイングが今まで続いていると言うのは、ロールプレイングにはまだまだ未知の世界というか開拓していくとどんどん深まっていく要素を持っているので、きちっとした形で残したいと思っています。（研修講座の中でのロールプレイングは好評だったんですがね）

最近、私が始まったのは集団ではなくアートセラピー（絵）なんです。これは「何でこんな線を書いて、何でこの色を選んだのか？」と自分との対話ができますし、他者とも言葉でない対話もできますしね。実は精神分析も勉強してみて「自分を分析してみないとどうにもならない」と気づいて、精神分析の代わりにアートセラピーでも潜在的な表現から自己分析が出来ていくのではないかと思ったりして……。

○失礼ですが御歳は何歳ですか？

勉強熱心でいろいろな研修会でお会いしますが、そのバイタリティーはどこから来ているのでしょうか？

私も72歳になりました。栃木県に現実療法を紹介したり、相馬誠一（箱庭療法）、杉浦京子（コラージュ療法）、檜林理一郎、東豊、団士郎（家族療法）などの人達を栃木県にお呼びしたという点では少しは栃木県の教育相談に功績があるかなあ～。

いろいろな研修会などで勉強するのは一種の職業病ですよ。私達は臨床を行う上ではどんなクライアントが来てもより適切に援助できればという欲があるんですよ。私は家族療法学会や家族心理学会の流れの中で、新しい理論や技術も今までとは違う形のアプローチとして使い分けられるように勉強しています。それに、人間を「つながり」や「システム」とらえる考え方に魅力を感じるし、実際につながりの中で起きてくる縮図で動いている訳ですしね。家族療法を勉強してシステム的な視点からその人だけを見るのではなく、その人の動きやどういう関係の中で育ってきたのかなど、深まりや広がりを通して人間を見るという気持ちがありましたね。しかし、自分の相談でしっかりしたセオリーがまだまだ確立されていないと自分では思っています。だから、自分が納得できるものと出会いたいと勉強を続けています。



○栃木支部で活動している会員や学校カウンセラーの取得を目指している方へのアドバイスをお願いします。

國分康孝の言葉で「自分の手の延長としての技法を持ちましょう」というのが良いなあ。いろんな講師のいろんな話を聞くだけでなく、自分にとって何が活用できるかを考え、最も良い方法を身につけるために深めていく努力をしてもらいたいと思います。これから勉強してくる人達にアドバイスするとすれば「哲学を持って」勉強してもらいたいですね。そしてそういう人達の成果が栃木県として一つのまとまった研究成果を上げてもらえたら良いなあと思いますね。（これからも応援しますよ）

- ※ 研修会の写真は昨年行われた
学校教育相談基礎講座
Session 7「かかわり技法・傾聴技法」より

○ 島根大会レポート

「第17回総会・研修大会（島根大会）に参加して」

小川 正人先生 馬頭町立馬頭小学校

遠路島根において、第17回総会・研究大会が開かれました。研究大会は、関東近辺とその他の地方とが交互に開催されます。昨年は山梨で、今年は島根でした。東京から飛行機で1時間と、遠方でしたが参加者は200名を越えて盛況でした。

大会に先立ち、8月6日には研修委員会主催のワークショップが開催されました。フォーカシング、発達障害、ストレスマネジメント、不登校、切れる子への対応、教師と生徒のコミュニケーションの6つのコースが用意されていました。

7日には最初、総会が行われました。平成16年度の決算、17年度予算、役員改選が上程されました。役員改選では、日野会長が今後2年間会長職を続けることが承認されました。

次に記念講演として、島根大教育学部の岩宮恵子教授が「思春期の『異能感』と『解離』の問題を考える」という演題で講演が行われました。岩宮教授は、まだ若い女性で漫画家を志望していたという異色のキャラの持ち主で、漫画「ヒカルノ碁」「デスノート」を元に講演しました。若者は霊に関するものに非常に興味を抱くが、それは非現実なものに憧れ、特別な力があるという異能感のためであるという解釈でした。

午後からは、実践事例・研究発表が9分科会で26の研究発表が行われました。発表内容は、不登校、虐待、学校内の相談体制など例年の他に、今年の特徴として支部の活動や調査研究委員会の本学会の意識調査の発表がありました。

8日は、シンポジウムで「学校教育相談の機能アップの具体策を問う」という題で実施されました。3人のシンポジストの発表の後に、フロアからの活発な意見が発表されました。



○ 栃木支部よりのお知らせ

①「第12回支部研究発表大会」のお知らせ

10月8日（土）に栃木県教育会館小会議室において「第12回支部研究発表大会」を開催します。コメンテーターには毎澤典子先生をお迎えして、研究に対するアドバイスや事例に対する援助のヒントが頂けると思います。『研究発表大会なんか大変そう？』と硬く考えずに『自分の実践を報告する』&『他の人がどんな実践を行っているかを知る機会』というつもりで、奮って参加して頂きたいと思います。

研究発表者名

影山憲一さん（足利市立小俣小学校）

斎藤誠一郎さん（作新学院高等学校情報科学部）

佐藤美枝子さん（那須町立江川小学校）

中山昌子さん（足利西高等学校）

※ 記載の順番は五十音で発表順とは関係ありません。

②日本学校教育相談学会栃木支部会報について

昨年より「年2回発行」を目標に日本学校教育相談学会栃木支部会報を作ってまいりましたが、今回は会員の皆様からの意見を取り入れてインタビュー方式の記事や大会への参加の記録を記事にするなど新しい事にもチャレンジしてみました。これからも栃木支部会員の声が届く会報を目指していきたいと思っております。NO. 4には栃木支部事業計画にある研修会や月例研修会の際に「感想カード」なるものを受講者にお書き願ひ、承諾が得られた場合には会報に掲載していくことも考えております。つきましては、栃木支部関連の講座や研修の際に感想や記事の原稿の依頼をお願いすることがありましたらご協力のほどよろしくお願いいたします。

日本学校教育相談学会栃木支部

〒320-0066 宇都宮市駒生 1-1-6 教育会館内

栃木県教育研究所相談部 日本学校教育相談学会事務局宛

TEL・FAX 028-647-5682

（発行責任者 丸山 隆 / 広報担当者 藤浪 直紀）

平成 17 年度日本学校教育相談学会栃木支部事業計画

開催期日	事業名	会場	備考
6月18日(土)	【第14回総会】 講演「教育相談のこころ」 講師 甲斐 志郎先生	栃木県教育会館	甲斐 志郎先生 甲斐教育・心理研究所 所長
10月8日(土)	【月例研修会】 「第12回支部研究発表大会」 コメンテーター 毎澤 典子先生	栃木県教育会館 小会議室	毎澤 典子先生 宇都宮市教育センター 相談員
12月3日(土)	【カウンセリング特別講座・合同研修会】 講演「認知行動療法」 講師 内山 喜久雄先生	栃木県教育会館 小ホール	内山 喜久雄先生 筑波大学 名誉教授
12月 日() ～ 日()	【学会研修プログラムによる基礎研修】 内容については未定	栃木県教育会館 大会議室	
1月21日(土)	【月例研修会】 講演「小児科から見た児童臨床」 講師 渋川 典子先生	栃木県教育会館 中会議室	渋川 典子先生 渋川小児科医院 院長
2月4日(土)	【精神医学特別講座】 講演「PTSDへの理解と対応」 講師 檜林 理一郎先生	栃木県教育会館 小ホール	檜林 理一郎先生 日本家族療法 学会会長

日本学校教育相談学会栃木支部協賛研修会年間予定

7月30日(土) ～8月1日(月)	【県教育研究所箱庭療法研究会】 箱庭療法研究会	ホテルたかはら	
8月6日(土) 7日(日) 8日(月)	【日本学校相談学会第17回研究大会】 記念講演 「思春期の『異能感』と『乖離』の問題を考える —マンガ『ヒカルの碁』と『ディスノート』から—」 記念講演講師 岩宮 恵子先生	島根県 松江市	島根大学 助教授
8月10日(土) 11日(日) 12日(月)	【カウンセリング学会合同研修会】 第45回カウンセリング研修会(栃木大会)	鬼怒川 グリーンパレス	
8月17日(土) 18日(日) 19日(月)	【カウンセリング学会第38回大会】	コンセーレ 栃木県教育会館	
11月	【心の会議】 未定	栃木県総合 教育センター	
1月7日(土) 8日(日) 9日(月)	【日本学校相談学会・中央研修会】 未定		